

企業名： 明治ホールディングス

レポート名： 統合報告書 2021

1. この会社が目指す姿が理解できるか

グループ理念自体は「おいしさ・楽しさ」、「お客様の気持ち」、「生活充実」などと抽象的な語句が多く、あまり目指す姿がはっきりと捉えられなかった。

しかし、別の箇所で 2026 年に向けたビジョンが掲げられており、そこでは数値を伴った具体的な目標が挙げられていてわかりやすかった。

また、その目標を達成するための段階的な施策や、その中でいくつかの方針などが具体例とともに紹介されており、視覚的にも目指す姿が理解しやすいような統合報告書となっていた。

ちなみに 2022 年現在は 2026 年のビジョンに向けた 3 ステージのうち第 2 ステージに位置しており、各事業ごとに中間経営計画を実行している。

2. この会社の競争優位性が理解できるか

わたしはこの企業の競争的優位性は他の同系統の企業に比べてヨーグルトやチョコレート、その他様々な特定の商品における市場でのシェアが圧倒的に大きいことだと考える。また、シェアが大きいことによるネームバリューも強みの一つであると思う。余談になるが、個人的なことという R-1 ヨーグルトを愛飲しているのでそれだけで競争優位性が高いと思う。

また、明治ホールディングスは食料品だけでなく医薬品の分野での販売も進めており、抗菌剤やインフルエンザワクチンなどのシェアも大きい。

このように他分野にわたって大きなシェアを得ていることがこの会社の競争優位性だと考える。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

わたしはこの競争優位性はしばらくの間は持続性があると思う。なぜならばこの会社のように多分野で大きなシェアを得ている場合、仮に 1 つの分野で競合企業が拡大して市場シェアを食われたとしても別の分野で取り返したりできるためだ。それに加えて明治グループは大きな企業である程度の財の貯蓄もあるので立て直しも可能であると思う。例えば森永乳業などが乳製品などの分野での競合他社になるがシェアを奪われたとしても医薬品などの分野に力を入れることで取り返せるだろう。一方、長期にわたって様々な分野で競合する企業が現れてきた場合、すべてに手が回らなくなり切り離す分野が出てくる危険性がある。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

わたしはこの会社で自分の人的資本の価値は向上できると思う。ただ研究する資源をグループ内で抱え込むのではなく、国や大学に人材を派遣して新たな知見を吸収するオープンイノベーションが積極的に行われているため、これによって自身の知見が増えるいい経験になると思う。また明治が目標として掲げているE S Gの強化に対して真剣に取り組むことで、社会課題をビジネスチャンスへ変換するという柔軟で機転の利く発想や思考が構築されると考える。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

全体的に写真やグラフ、表などが多用されており、視覚的にわかりやすい報告書となっている。一方、文章を読んでも少し表現がくどかったり、内容の重複があったりしたので、その点で文章を簡潔にまとめるといった改善の余地があると思う。